
経済 TOPICS

No. 229

(2024年3月21日)

景気ウォッチング（要旨）

日本 … 設備投資が回復しているものの、個人消費や輸出が横這い圏内の動きのなか、生産が弱めの動きとなっていることから、回復の動きが足踏みしている。消費者物価は、前年比プラス幅は縮小傾向にあるが、サービス価格の上昇圧力や価格転嫁の動きが続いている。この間、能登半島地震や海外での軍事紛争の拡大に伴う影響が懸念されるなど、先行き不透明感の強い状態が続いている。

米国 … 生産や個人消費が横這い圏内の動きを続けるなか、住宅販売に底打ちの兆しが窺えるほか設備投資が堅調なことから、全体としては緩やかな回復を続けている。消費者物価は、前年比プラス幅が下げ止まりの状態となっている。

（参考）物価動向

<日本> エネルギー価格の前年比マイナスが続き、生鮮食品を除く食料価格のプラス幅が縮小していることから、全体としての前年比プラス幅は縮小傾向にあるが、サービス価格の上昇圧力や価格転嫁の動きが続いている。

<米国> 食料やエネルギー価格が鎮静化するなか、人件費の上昇に伴うサービス価格の上昇圧力が続いていることから、全体としては前年比プラス幅が下げ止まりの状態となっている。



京都フィナンシャルグループ

京都総研コンサルティング
